

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
294	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
<p>Body mass index, cigarette smoking, and alcohol consumption and cancers of the oral cavity, pharynx, and larynx: modeling odds ratios in pooled case-control data</p> <p>BMI、喫煙、飲酒と口腔、咽頭、喉頭癌：症例対照プールドデータによるモデリングオッズ比</p>	
執筆者	
<p>Lubin JH, Gaudet MM, Olshan AF, Kelsey K, Boffetta P, Brennan P, Castellsague X, Chen C, Curado MP, Dal Maso L, Daudt AW, Fabianova E, Fernandez L, Wunsch-Filho V, Franceschi S, Herrero R, Koifman S, La Vecchia C, Lazarus P, Levi F, Lissowska J, Mates IN, Matos E, McClean M, Menezes A, Morgenstern H, Muscat J, Eluf Neto J, Purdue MP, Rudnai P, Schwartz SM, Shangina O, Sturgis EM, Szeszenia-Dabrowska N, Talamini R, Wei Q, Winn D, Zhang ZF, Hashibe M, Hayes RB</p>	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2010 Jun 15;171(12):1250-61. Epub 2010 May 21	
キーワード	
飲酒、BMI、喉頭癌、口腔癌、咽頭癌、喫煙、オッズ比	
要 旨	
<p><b>目的：</b></p> <p>頭頸部癌のオッズ比は、喫煙と飲酒量が多く、BMI が低いほど増加することが知られている。国際頭頸部癌疫学(INHANCE)コンソーシアムのデータを用いて喫煙と飲酒に関連する要因として BMI の分析を行った。</p> <p><b>方法：</b></p> <p>非喫煙者と現在喫煙者の 6,333 症例と非飲酒者と 1 日の飲酒量が 10 杯以下の者の 8,452 症例を解析した。解析には 8,000 例以上の対照を用いた。</p> <p><b>結果：</b></p> <p>すべての部位で、BMI が低い、喫煙が多い、飲酒量が多いとオッズ比が高かった。多分割回帰(polytomous regression)では、オッズ比は口腔癌と咽頭癌で同程度であり、BMI(p=0.65)、喫煙(p=0.52)、飲酒(p=0.73)であった。BMI と飲酒の口腔/咽頭癌に対するオッズ比は大きく(p&lt;0.01)、喫煙の喉頭癌に対するオッズ比が大きかった(P&lt;0.01)。BMI が低いと喫煙と飲酒の口腔/咽頭癌に対するオッズ比が上昇(p&lt;0.01)する一方で、BMI は喫煙と飲酒の喉頭癌に対するオッズ比に影響しなかった。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>BMI が低いとすべての部位の癌のオッズ比が高いことは、発癌メカニズムと関係しているのかもしれないし、BMI が喫煙と飲酒の口腔/咽頭癌に対するオッズ比を修飾するが、喉頭癌にはしないことは、口腔/咽頭癌には他の要因が示唆される。</p>	